

は分布し第三紀より現世に到るまでも繼續せし事を知るを得たり。(G. KOIDZUMI)

**小倉謙氏：帆柱石と稱する木幹の化石** (Y. OGURA: On the structure of "Hobashira-ishi" at Najima near Fukuoka, in Jap. Jour. Bot. Vol. VI. No. 2, pp. 173—190, t. 3—4. 1932).

日本古第三紀なる秋津統の暁新世の地層は獨り北九州にのみ發達するものゝ如し高島炭田の二子島累層を以て最も代表的のものとなす、北九州の暁新世の地層よりは從來唯 *Sabal nipponica*, *Lastraea japonica*, *Acrostichum hesperium* 等の化石植物を發見されしに過ぎざれども是等所生植物より推せば當時北九州は熱帶にも比すべき氣候なりしを知るべし。

北九州の暁新世の地層は多數の硅化木を包藏し松石の名を以て通稱さる、福岡市に近き名島の有名なる硅化木は帆柱石と俗稱され傳説を以て有名なり。著者は此帆柱石類の研究をなし *Quercinium Hobashiraishi* OGURA 及び *Phyllanthinium Pseudohobashiraishi* OGURA の二種を發見せり、前者は殼斗科のもの後者は大戟科の *Phyllanthoideae* のものなりと云ふ。

されば此地方に多き松石類の研究も進歩せば北九州の暁新世の Flora の狀も追々明になることである。(G. KOIDZUMI)

**ペルニツツ氏：Claytonia 及びヌマハコベ屬** KARL VON POELLNITZ: *Claytonia* GRONOV. und *Montia* MICH. in Fedde Repert. Spec. Nov. Regn. Veget. XXX (1932) pp. 279—325.)

著者は世界に産するスベリヒユ科の *Claytonia* 屬及び *Montia* (ヌマハコベ) 屬を調査したが、同氏に依れば *Claytonia* は31種、*Montia* は5種を産する。その内 *Claytonia* は嘗つて我千島に産すると云はれた事もあつたが現在不詳であるから、明かに本邦にも産する後者だけの檢索表をかゝける。

- |   |                                 |
|---|---------------------------------|
| 1. 越年性。   | 2.                              |
| — 一年性。  | 3.                              |
| 2. 種子は甚だ強き光澤あり、莖は浮游性又は地上を匍匐す(歐洲、北米、南米、オークランド島)。               | 1. <i>M. rivularis</i> GMEL.    |
| — 種子は僅かに光澤あり、莖は多少直立す(歐洲)。                                     | 2. <i>M. limosa</i> DECKER.     |
| 3. 種子は光澤あり、枝は 25 cm. に達す、ヌマハコベ(歐洲、亞細亞東部、北米、亞弗利加、ニュージーランド、日本)。 | 3. <i>M. lamprosperma</i> CHAM. |